東日本大震災を例に
保育現場の防災学ぶ
つくし幼稚園職員ら

つくし幼稚園（大滝良子園長）は18日午後、NPO法人子どもの森づくり推進ネットワーク（清水英二代表理事、東京都）が企画・運営する「保育防災シミュレーション講座」を実施した。同園職員15人が参加し、改めて保育現場の防災や防犯について学んだ。

講師は中越大震災時に避難所ボランティア（段ボールによる更衣室設置など）として当市で支援活動の経験がある消防庁アドバイザー・鎌田修広さん（神奈川県藤沢市、㈱タフ・ジャパン代表）。「ピンチに直面するほど、人間は固まってしまうもの。そんな時には落ち着いて柔軟な思考、脱力が大切」と、職員の力自慢と指相撲対戦、力では抜けなかった親指を、脱力状態で簡単に抜いて見せた。

危険を知る「予測」、被害を防ぐ・減らす「予防」、正しく行動する「対応」の危機管理で大切な3つの原則を説明。他施設の取り組みをもとに、つくし幼稚園の所在地から得られる、過去災害・地盤強度・活断層などの情報サイト・アプリの活用方法や、防災・防犯・感染症などへの対策の大切さも紹介した。

防災に関しての〝罠〟として、「命が助かることを前提にすると、防災意識が高まらず、進まない」と指摘。東日本大震災時、徒歩で数分の裏山に、直ちに避難できなかったために、大勢の児童や教員が犠牲となった小学校のケースを例に、震災後に講師が撮影した裏山への避難経路動画を見ながら、正確な情報伝達の重要性を説明した。

後半のワークショップでは、職員が幼稚園の園舎構造、避難場所、災害時引き渡し方法、備蓄、各種訓練実施状況などを書き出して発表。可視化することでより分かりやすくなることを確認した。

大滝園長は「施設の細かな情報開示は、保護者の安心に繋がることを知った。今後は学んだことを参考に協議していきたい」と述べていた。

今回の講座は、同ネットワークが来春から開始する保育施設に特化した防災リーダーの養成を目指す「保育防災アクションマイスター認定講座」のプレ企画として行なわれた。